

経済産業省ヒアリング

2023年度第4四半期の切板需要動向



2023年12月13日（水）

於 経済産業省

 全国厚板シヤリング工業組合

2023年度第4四半期の切板需要動向

全国厚板シェアリング工業組合

1. 全体業況

	年度	1Q	2Q	3Q	4Q	年度平均
① 切断量	2019	143	143	131	126	136
	2020	113	110	117	119	115
	2021	128	125	128	125	127
	2022	128	129	135	125	129
	2023	127	122	125	125	
② 受入	2019	180	171	153	142	162
	2020	130	127	140	146	136
	2021	162	153	164	171	163
	2022	170	162	156	150	160
	2023	145	143	150	150	
③ 出荷	2019	170	168	157	150	161
	2020	140	136	142	145	141
	2021	158	155	156	155	156
	2022	158	161	165	155	160
	2023	155	147	150	150	
④ 期末在庫	2019	437(260)	449(267)	439(280)	414(276)	—
	2020	384(274)	356(262)	351(247)	351(242)	—
	2021	361(228)	356(230)	380(244)	428(276)	—
	2022	463(293)	466(289)	441(267)	415(268)	—
	2023	387(250)	374(254)	374(249)	374(249)	

※網掛け部は、事務局推計値。単位：千トン/月平均

(前回推計値との差)

	2023年度 2/Q		2023年度 3/Q	
	前回推計	今回	前回推計	今回
切断量 (千トン/月平均)	125	122	130	125
受入 (千トン/月平均)	145	143	155	150
期末在庫 (千トン)	372	374	372	374
在庫率 (%)	248	254	240	249

2. 足元の状況総括

年末を迎えるも、需要環境は秋需もなく低迷した状態が続いている。組合各社の切断量も暦年平均12万5千トン/月程度が予想され、22年を下回る公算。素材・エネルギー・物流・人件費等あらゆるコストが上昇し、需要回復が待ち望まれるが、年明け第4Qも悲観的な見方が多く、鉄骨・橋梁に至っては、本格回復は25年度以降との声が聞こえている。ZSKとしては、取引適正化活動を従前にも増して進めていく事は無論の事、官民連携したDX化推進による業務効率化(M/Sのデータ化・物件名廃止、受発注デジタル化)・商慣習改善を強力に進めていく必要がある。合わせて労働力安定確保に向けた取組も加速必須であり、関係省庁・鉄鋼各社に一層のご支援ご指導を賜りたい。

3. 全国概況

(1) 概況

日本経済は、一部指標に弱さがみられるも、総じて緩やかな持ち直しの動きが続いている。国内鉄鋼市場を見ると、自動車部門では9月の四輪車生産が前年同月比10.7%増と9ヵ月連続で増加しているが、産業機械部門では減少が継続している。また、建設業では、非住宅着工床面積(同0.8%増)が8ヵ月ぶりの増加となった。

このような経済・需要環境下、厚板シヤリング業界に於いては、ほとんどの需要分野で需要は低迷しており、前年度を下回る仕事量が継続している。一方で、厚板母材価格は高炉材を中心に高止まりが続く中、電力他用役費・輸送費・人件費等あらゆるコストが上昇しており、厚板シヤ各社は益々厳しい状況に置かれている。したがって、取り引き適正化の活動を一段と深化させ、早急に需要家への更なる価格転嫁を実現させていくことが喫緊の課題となっている。

(2) 鉄骨

2023年上期の鉄骨需要は前年同期比16.5%減し195万トンと14年ぶりに200万トンを割り込んだ。これは、資材高騰等による着工延期や中止に加え、一部大型案件の図面承認遅れ等による工程のずれ込み影響が依然継続しているためであり、今後の動向を引き続き注視していく必要がある。

なお、中小案件の低迷は当面続くものと思われるが、大型案件については、全国各地で再開案件等があり、需要の下支えとして期待されることであるが、人手不足や残業規制等がゼネコンやファブの稼働に及ぼす影響を含めて、不透明感は依然強いことから、2023年度需要は前年度の432万トンに届かず400万トン前後に落ち込むものと想定される。

(3) 橋梁・土木

2023年度上期の鋼橋入札量実績は、対前年度32.6%の大幅減となり52千トンと極めて低位な結果となった。下期は若干持ち直すと想定されているが、23年度合計では2019年度の146千トンに届かず、過去50年で最低の140千トン割れを記録する可能性もでてきてい状況で、早期の回復が待たれる。

なお、大型案件の大阪湾岸西伸線は、詳細設計に相当の工期が必要となる模様で、発注の本格化は更に後ろ倒しになるとの声が多い。

(4) 建機

建機の世界需要については、新興国のインフラ・マイニング向けは引き続き堅調と見られているが、中国の需要低迷継続、北米住宅部門の悪化や欧州の景気減速懸念が増大していることから、減産の動きが出てきており、今年度需要は昨年度よりも減少するものと思われる。

このような状況下、国内建機メーカー各社の生産計画は、特に欧州向け需要減の影響が大きい模様で、生産規模は前年度よりも8%程度の減と想定されている。

(5) 産機

工作機械分野については、世界経済が鈍化しており、2023年7-9月の受注金額は、内外需ともに減少しており、前年同期に比べて16%減少する結果となった。前年同期比では4四半期連続で減少する状況が続いている。

なお、重電関連向けでは前回報告から大きな変化はなく、海外需要が引き続き弱い一方で、国内電力向けで変圧器等の設備投資に期待があり、全体的には、前年度並みから微減程度の仕事量で推移するものと思われる。

(6) 船舶・その他

新規造船商談は、全体的には引き続き堅調に推移している。しかしながら、既報のとおり、人手不足や機器調達難等により建造ピッチが上げられない状況が続いているため、手持ちの受注残は、国内造船メーカーは3年程度の仕事量を確保している模様。

この結果、2023年度のマクロ需要は、前年度から微減の265万トン程度となる見通し。

(7) 店売り

建築・土木関連の需要回復の動きは一向に感じられず、また、これまで堅調であった建機関連もメーカー生産計画の下方修正の動きも出てきている等、需要は低迷したまま推移し、市中在庫の過剰感も解消には至っていない。また、6月の電炉メーカーの値下げ発表以降、高炉材との価格乖離の影響も顕在化してきており、市況は弱含みで推移。あらゆるコストが上昇する中、非常に厳しい状況が続いている。

4. 地区別概況

(1) 東京

当地区の建材分野では、10月単月の6社合計での生産量（外注除き）は、橋梁・鉄骨案件ともに大きな活動の変化はないものの、数量回復への動きもなく、前月比微減の10.5千トにとどまる結果となった。今後の仕事量も年内は現状並みの10千ト前後で推移するものと見ているが、年明け以降からは更に仕事量の減が見込まれる状況にある。

鉄骨の2023年度上期実績の需要量は、前年同期比▼17%の195万トンと22年度下期に続き半期200万トン割れが続く結果となった。今年度合計の需要量も前年度を下回り、400万トン前後にとどまるものと思われる。一方、2023年度の鋼橋入札量実績は上期実績で52千トと前期比▼33%の大幅減となった。したがって、今年度合計は、国交省・各高速道路会社ともに前年度から発注が減少する見込みであり、120千ト程度と想定される。

建機産機分野に於いて、建機は一部の好調メーカーを除き、また機種により差はあるものの全般的な需要の陰りが見え始め、若干の従来の動きに比べ減となるところが多い。工作機械も受注統計では前年同期比▼16.1%となっており対前年同期比の減少は4四半期連続となり生産活動は高水準ではない。鉄骨免震は総じて動きは弱く、この傾向は下期も続く。橋梁免震分野の支承材補修需要は底堅い。好採算の土木製品は堅調に推移しているが、セグメントに関しては大型案件が端境期の状況が継続、期待されていた関西を中心とした高速道路や調整池案件は、期末以降にずれ込むこととなっている。

(2) 東海

建材分野では、中小物件を中心に資材高騰等に伴う計画中止や見直し、延期が見られ、当地区では70%程度の低稼働状態のファブが大勢を占めている。堅調と言われる大型物件についても人手不足や設計変更等による遅れが目立っており、これに伴う山積みのズレからファブは物件の前倒し製作を行う等の調整に慌ただしいが、現状の工場稼働を維持するのが精一杯の状況。建材シャーの状況は、ファブの低稼働を反映して7~8割程度の仕事量になっているところが多い。年明け以降も良く現状維持、または減少を予想している。

建機産機分野は、産機系全体で荷動きが悪い状態が続く、店売りも低調で良い話が少ない。自動車向けの電池関連の設備投資の話も出てきてはいるが、実際に動くのは年明け以降になりそう。フォークリフト、工作機械共に好調だった輸出に陰りが見え、北米、欧州向けが低調な推移になる事が予想される。

(3) 大阪・神姫

23年度2Qから足元の12月まで、日を追うごとに切板需要を取り巻く環境は悪化している。既にピークアウトはしているが全般的に好調を維持していた建機分野も、中型機を中心に下方修正の局面となっている。大型機はまだ好調であるが、小型機にも少し陰りが見え始めている。橋梁向けは、入札が遅れていることに加え、在阪FABは落札出来ておらず苦戦を強いられており、シャへの切板発注も低調となっている。

産機・店売は中国経済の低迷や欧米の金融引締め政策による景気後退もあり、設備投資意欲の減退や生産調整により長期に渡り低調となったままである。一方、自動車産業は回復局面になっており、今後金型向けは回復する可能性があると期待している。また、関西地区では大きな影響はないが、半導体向けの設備投資は伸びており、工場建屋や設備関連での切板需要が出てくることが期待される。

(4) 九州

23年度2Qの建築は、1Q同様に図面・設計承認等の遅れにより案件は数カ月程度工程が後ろ倒しとなり、遅れながらもリストはダラダラと出件し一定の山積みは維持できている状況。しかしながら一部ファブでは工程遅延の為案件が重複し、調整の為外注ファブの起用等発生し、関連シャはそれらの対応に追われる状況となった。3Q以降の九州地場大型案件の山積みは、工程の後ろ倒しが恒常化している中、採算見直しによる案件の延期、中止も発生しており、端境期の状態は24年度一杯継続する見方も出てきている。中小案件も3Q以降も引き続き低調な状況が続く見通し

産業機械分野は、2Qは引き続きEV関連の需要は底堅いが、半導体関連の需要は若干一服感が出た。半導体は地場に大型工場の新設も有り長期的には需要堅調の見通し。洋上風力関連は2Qも地元案件が堅調に推移しており、予定通り23年度いっぱい状況継続の見通し。関連シャの2Qの稼働率は80%前後と前期横這いで低調となった。

『経済産業省ヒアリング資料 / (2023年12月)』

(5) 北海道

鉄骨需要量は基礎データの建築統計から推計した2023年1~10月合計92,500トで、前年同期実績101,000トに比べ8.42%下回った。北海道機械工業会鉄骨部会の共同積算数量(カバー率約85%)は1~11月合計80,885トで、同91,090ト比11.2%減少した。先行き見通しは、相変わらず新規中小物件の見積もりが低調と推測する向きが多い。札幌オリンピックの招致撤退による関連施設の建設中止や延期。さらに、北海道新幹線札幌延伸工事の遅れに伴う札幌中心街の再開発の延期や規模縮小が憂慮されている。23年度の鋼橋梁は、地場の鋼橋梁メーカー全体を充足する加工量に至っていない。内訳をみると北海道開発局、北海道総合振興局、各市町村の新規鋼橋梁は前年度より若干増加。ゼロ国債を含め、ほぼ全量が順調に発注された。切板は、建築用は遅れ気味だった札幌都心部や本州大型物件向けの鉄骨向け加工が進行しているものの、中小物件が少ないため低操業を余儀なくされている加工内容については相変わらず板比率の低い案件が大半で、受注ロットも少量多品種で小単重、型や異型が多いことから生産性は極めて低調。従って地域5社の稼働率は加工状況に格差がみられ、平均60~80%の稼働で前年度に比べ見劣りしている。

(6) 東北

東北地方は市場の低迷感は相変わらずであり、活発化する見通しも弱い。建築分野においては、ファブの手持ち工事量はHファブとMファブとで大きな開きがみられる傾向は相変わらずである。ほとんどのHファブは首都圏の案件が手持ちの大部分を占め、1~2年先の山積みの見通しにも問題はなさそうに見える。橋梁およびその他分野については、相変わらず足元も先行きも動きに大きな変化はみられない。建築需要が薄い分、製缶プラント関連の需要を求めるも、こちらあまり期待できないという声も聞かれる。シヤ各社の足元の稼働状況については、ほとんどの業者はほぼ60~70%程度の状況が続く。1~3月は50~60%に落ち込む見通しとの声もある。

(7) 新潟

建築分野では、新潟県の着工統計による2023年度の鉄骨量は5.6万トンペース、昨年比では95%となっているものの、今後の不需要期である冬場を加味すると10%以上の落ち込みになると推測される。県内ファブの稼働状況はおおむね100%で稼働している様子で、受注残もHグレード以上は半年から1年程度、Mグレード以下のファブは3か月前後となっており、首都圏などの物件を手掛けるところとそうでないところで濃淡はハッキリしている。また、ここにきて延期や中止といった話も多くなっている様子で、ユーザーによってはある時期に工程が空いてしまうといった話も聞かれることが更に増えたように感じる。切板は、新潟支部メンバーの申告による稼働率は80~90%で変わりはなく、穴あけなどの二次加工も含め作業量に山谷がある中で、短納期対策の残業を交えながら予定していた物件を肅々とこなしている状況である。

(8) 中国

元請け・加工業者自体が受注できてなく、引き合いも減らしており、年度末に向けての駆け込みに期待。人手不足が発注、出図や設計・施工の遅れとなり、注文は短納期・小LOT・小単重・高工数案件が続く。次の物件までの端境期かと考えている。出荷は、来年度中旬以降の物件次第ではないか推測する。

建築分野では、大型物件も終盤で人手不足で操業あがっていない。地場の大型継続案件である広島駅ビル改築・サッカースタジアム新設工事は最終段階。鋼材搬入をほぼ終えて、現在は内装が中心。市街地の再開発、建屋(工場・倉庫・市庁舎:出雲・下関・岡山・呉、他)は24年度中盤以降の工事案件。S・Hファブは関東(東京再開発)建築の継続案件。操業が高いファブも外注先への発注・出図は遅れ傾向。橋梁は地場案件が乏しく、神戸以西・九州沖縄までの小口・高架橋等の出件を拾い集めるのが実態である

以上

5. 課題と取り組み状況

★: 今回追加情報

5-1. 外国人特定技能制度に関して

- ・ 外国人受入の対策に関して、「当組合の総務委員会が中心となり、既存制度と本制度について調査し、今後の対策を検討する」として、理事会および通常総会に於いて承認を頂き、制度説明会への参加や経済産業省殿からご指導頂くなど活動している。
- ・ 製造業特定技能外国人受入れ協議・連絡会への加入や、2020年からは行政書士との顧問契約締結（2020年～至現在）分野追加または職種追加に向け体制の強化を図っている。
- ・ 外国人受入については加盟企業からの異論はなく、具体的な方策については総務委員会で検討している。

< 経済産業省殿からの依頼に対する対応 >

(1) 外国人材雇用に関する緊急アンケート実施

- 組合員への依頼：2022/3/10、経産省への提出：2022/4/27
- 結果：107/152社 提出率：70%
- 調査内容
 - ・ 従業員数・女性従業員数、高齢従業員数の推移（2015年度末～2021年度末）
 - ・ 技能実習生（1号～3号2年目）の受入人数推移（2019年度末～2021年度末）
 - ・ 当該制度の活用の調査（2020年度末～2021年度末）
 - ◇ 特定技能制度活用希望、特定技能受入見込、現技能実習生からの移行
- 2021年度末(2022.3末)の回答
 - ・ 従業員数(7,628名)、女性従業員数(1,248名16.4%)、高齢従業員数(908名11.9%)
 - ・ 技能実習生受入数(合計112名)
 - ◇ 1号(18名)、2号1年目(44名)、2号2年目(88名)、
3号1年目(36名)、3号2年目(10名)

(2) 「人材不足状況に関する調査」の対応

- 経産省からの協力依頼：2022/11/25、経産省への提出(2022/12/6)
- 主な提出内容
 - ・ 業界の人材不足状況に関して詳細に法務省へ説明できるよう調査依頼あり
 - ・ 概ね次の内容を纏めた。
 - ◇ 人材が不足している「工程」に関する詳細情報（作業風景写真付き）
 - ◇ 人材不足の解消にむけた行動
 - ◇ 外国人実習生の活動状況

(3) 要望書提出（特定技能の分野追加）

- 経産省からの協力依頼：2023/5/15、経産省への提出(2023/6/1)
- 依頼内容：法務省との調整やその先のプロセスにあたり、業界全体で分野追加を要望していることを示すエビデンスが求められる可能性もあるから、正式な要望書のご提出を検討頂きたい。

★ **(4) 外国人の受け入れ必要人数提出(特定技能)**

- 経産省からの協力依頼：2023/9/14、経産省への提出(2023/9/21)
- 依頼内容：有識者会議での議論を踏まえ、分野追加の議論にあたっては明確な根拠を求められるという話もあり、具体的な人手不足数や特定技能外国人が従事する業務等についてお伺いしたい。

★ **(5) 「特定技能2号」協力依頼**

- 経産省からの協力依頼：2023/10/13、経産省への提出(2023/10/17)
- 依頼内容 「特定技能2号」のご希望や、もし追加された場合に特定技能2号の方が従事する作業等についてお伺いしたい。①「特定技能2号」の対象分野への追加も希望されるか。②熟練した技能を有する「特定技能2号」の外国人を受け入れる必要性③「特定技能2号」の外国人が従事する具体的な業務内容

★ **(6) 「特定技能2号同時申請に関する確認」依頼**

- 経産省からの協力依頼：2023/11/8、経産省への提出(2023/11/14)
- 依頼内容 特定技能1号だけでなく2号への分野追加についても議論が動いているところですが、今回新たに1号への追加が検討されている分野をまとめて1号とセットで2号への追加を目指すという流れにはなく、2号への追加を希望するかは各分野で判断する形になっている。同時に申請するか否かの判断と、申請する場合に、2号に関して、2号の求める人物像(熟練工、マネジメント能力、ゆくゆくは工場長)が5年後足りなくなるといいう話では足りず、足下すでに国内人材だけでは熟練工や管理者が不足していて危ない状態であることを示すようなデータ(例えば5年前と比べて管理職が減っている等)が必要となる。

- ・ 当組合では、多くの企業において技能実習生を雇用しており、実態としては人手不足軽減のために技能実習生に頼っているところもあります。技能実習制度受け入れの本来の目的は理解しているものの、今後は、ビジネスと人権の観点からも、技能実習制度の縮小が考えられますため、新たなる分野追加も含め特定技能制度が拡大・充実して行き、国内人材不足の解消につながることを期待しております。

< 今後の進め方 >

- 20222023年度中に分野もしくは職種追加が実現できるよう製造業特定技能外国人受入れ協議・連絡会に参画し情報の入手に努めるとともに、経済産業省殿からの協力依頼に対して、行政書士を介して適切かつ迅速にお応えする。

5-2. ミルシート関連に関して

(1) 物件名の廃止に向けた取り組み

需要家団体である「鉄骨建設業協会」・「全国鉄構工業協会」と ZSK 東京支部/規格建材部会でWG（ミルシート 表記改善 WG）を結成し、ミルシートへの需要家名・工事名の記載を廃止すべく検討会を実施。WG は全 8 回開催の内、2021 年度は 5 回実施し、日本建築構造技術者協会（JSCA）も交えて議論。

< 2020 年度活動 >

第 1 回 WG (2020/3/3)、第 2 回 WG (2020/7/15)、 JSCA 訪問 (2020/8/15)、
第 3 回 WG (2020/10/27)、第 4 回 WG (2021/1/26)

< 2021 年度活動 > 第 5 回 WG (2021/5/25)、第 6 回 WG (2022/1/12)、

事前打合せ (2022/1/28)、第 7 回 WG (2022/2/18)、第 8 回 WG (2022/3/11)

< 2022 年度活動 > 鉄骨建設業協会との協議 (2023/2/16)、(2023/2/28)

※第 8 回 WG の後、鉄骨建設業協会が JSCA に訪問し最終の申入れ実施。(2022/3 末)

- 物件名の廃止に伴い、JSCA からの要望として、鋼材の品質証明の確立が求められた。これに対し、次の点の検討を進める。
 - ◇ 重要度ランクの定義、書類定義・構成、エキストラ体系
 - ◇ トレーサビリティのルール化、見積～歩留・ロス反映、余材管理方法を取りまとめる。
- JSCA (常木会長) から、「工事名/ファブ名が記載されなくても施主の権利が侵害されることがないことを、設計から施主に説明する資料を作る必要がある」との意見があり、鉄骨建設業協会に対して、東京支部/規格建材部会のメンバーを中心に対応中。
- 2022 年度は、東京支部/規格建材部会と技術委員会のメンバーからなる新たな組織で本件の対応を行う方針である。
- 2022 年 7 月から鉄骨建設業協会は、大手ゼネコンを対象に「ミルシートの記載省略等合理的な鋼材管理」の陳情活動を開始した。
- 鉄骨建設業協会の今年度 (6 月予定) の JSCA への陳情項目の中に、鋼材の所有権に関する明確な説明を追加頂くよう協議した。
- 鉄骨建設業協会会長に現状説明を実施。JIPDEC 坂下常任理事及び日新シャーリング/政清常務、ZSK 事務局/染宮が訪問した。鉄骨建設業協会側の取組を確認。10 月以降、ZSK が鉄骨建設業協会に正式に申し入れを要請する方向とした。(2023/9/11)

★ ● ZSK 取組み及びデジタル庁事業の説明を鉄骨建設業協会に実施 (2023/12/8)

(2) ミルシートの電子化に向けた取り組み

- 鉄鋼流通 4 団体 (全国鉄鋼販売業連合会、全国コイルセンター工業組合、全国特殊鋼流通協会、ZSK) および日本鉄鋼連盟とのミルシート電子化に関する会議を実施
 - ・ 流通 4 団体/第 1 回 (2020.11/16) 各団体の考え方の確認
 - ・ 流通 4 団体/第 2 回 (2021.4/6) ZSK が考えるミルシートの電子化
 - ・ 中小企業庁/村上市部長 第 1 回意見交換会 (2021/6/21) 鉄鋼業のデジタル化
 - ・ 流通 4 団体/第 3 回 (2021.10/14) 上記 4 回の打合せ 鉄鋼連盟への要請文書
 - ・ 鉄鋼連盟 情報化委員会/第 1 回/説明会 (2022/1/17) 鉄鋼 EDI 概説
 - ・ 鉄鋼連盟 情報化委員会/第 2 回/説明会 (2022/2/25) 鉄鋼 EDI 操作説明・意見交換

『経済産業省ヒアリング資料 / (2023年12月)』

- 鉄鋼連盟 情報化委員会/第3回/説明会(2022/9/6) 鉄鋼 EDI 意見交換
 - 鉄鋼連盟 情報化委員会/第4回/説明会(2023/5/30) 鉄鋼 EDI 意見交換
 - 鉄鋼連盟 情報化委員会/第5回/説明会(2023/12/5) 鉄鋼 EDI 意見交換
- ミルシートに対し「紙から PDF」「検索情報の発信と利用」の重要性は共通の認識。
 - 鉄連見解:「高炉メーカーから大手商社に対しては PDF の提供はできている。ZSK 組合員が PDF ファイルを必要な場合は、各社が個別に確認依頼して欲しい」
 - ZSK 組合員に対し、ミルシートでの電子化に関するアンケートを実施(2023/7/3)。集計結果を機関誌 8 月号で報告するとともに、2023/8/28 実施のデジタル庁との意見交換会で報告。

5-3. 受発注のデジタル化に関して

(1) 経産省・中企庁・デジタル庁主催の「産業連携基盤」構築に向けた研究会、WG および分科会に参画

鉄鋼業界、電機工事・電材卸売業界、流通業界が先行の 3 業種として選定され、受発注のデジタル化実証に向けたデータ連携基盤の整備方針の策定を行った。WG では業務課題を洗い出し、その結果を受けて研究会にて整備方針を取り纏めた。

研究会 (研究会メンバー: 石原理事長、染宮事務局長)

第 1 回研究会 (2021/12/8) ・ 第 2 回研究会 (2022/2/24) ・ 第 3 回研究会 (2022/3/25)

WG (WG メンバー: 政清委員、染宮事務局長)

第 1 回 WG (2021/12/21) ・ 第 2 回 WG (2022/2/7) ・ 第 3 回 WG (2022/3/18)、第 4 回 WG (2022/3/25)

ミルシート 分科会 (2022/2/9)

- 活動報告「中小企業の受発注のデジタル化推進方策に関する調査」は中企庁 HP に公表 (2022/3/31)
- ミルシートに関しては、産業連携基盤から独立した検討会をデジタル庁が中心となって 2022 年度に設置し進めていく方針となった。

(2) 研修会およびセミナーによる組合員への啓蒙活動

受発注のデジタル化に関係する講演を行った研修会ならびにセミナーは次の通り

- 第 3 回 ZSK 技術セミナー (2022/11/10@浦安鉄鋼会館、参加者 100 名)
 - ◇ デジタル庁/村上統括官 「データスペースエコノミーの描く未来」
 - ◇ 三菱商事 「ミルシート電子化プラットフォーム Mill-Box」
- 講演内容は、Youtube にて ZSK 組合員に限定配信

(3) 電子受発注システム普及促進に向けた実証調査事業に参画

2021 年度から中小企業庁が進めてきた事業は、2022 年度では実証調査事業の段階に進んだ。ZSK は、21 年度に引き続き、産業基盤連携における業界固有の取引項目の整理及び業界内実証を行うべく研究会に参画。

■ 研究会 (メンバー: 石原理事長)

オブザーバー: 加藤/JFE 鋼材常務、加藤/河合部長、染宮事務局長

第 1 回連絡会議 (2023/1/23)、第 2 回連絡会議 (2023/2/21)、第 3 回連絡会議 (2023/3/17)

『経済産業省ヒアリング資料 / (2023年12月)』

■分科会 (メンバー：政清委員)

オブザーバー：(加藤/JFE 鋼材常務、加藤/河合部長、染宮事務局長)

第1回分科会 (2023/2/1)、第2回分科会 (2023/2/8)、第3回分科会 (2023/2/15)、

第5回分科会 (2023/3/1)

■実証実験： JFE 鋼材東京事業所にて(2023/3/9)、日新シャーリング茨城工場と実証実験実施

※ 実証ケース：同業者間(A社→B社)のデータ連携

参加：デジタル庁、経済産業省商務情報政策局情報経済課、情報処理推進機構、

EY ストラテジー、グローバル、三菱商事

■事務局連絡会議：(メンバー：染宮事務局長) WEB 会議による実施 毎週火木 10:00~10:30

■企業間取引将来ビジョン検討会(メンバー：<東京支部規格建材部会>日新シャーリング/政清常務)

内容：産業デジタル戦略及びサプライチェーンデータ連携基盤ガイドライン

第1回(2022/11/7)、第2回(2022/12/13)、第3回(2023/2/7)、第4回(2023/5/9)

(4) デジタル庁が進める電子受発注システム普及促進に向けた事業に参画に向けて

2023年度の事業は、中小企業庁からデジタル庁に管轄が移り事業を進めていく計画である。ZSKは、引き続き事業に参画させて頂き、受発注のデジタル化の普及に向け活動する。

- 石原理事長がデジタル庁へ訪問し、村上統括官と意見交換を実施 (2023/6/7)
 - 前年度は同業者間での実証だったが、今後は需要家を巻き込んでのデータ連携の実証が必要であり、そのためには、データ辞書の整理を早急に行わなければならない。
- 2023年度デジタル庁予算事業に関する意見交換会に JFE 鋼材/加藤常務及び事務局が参加 (2023/8/28)

★ ● **2023年度デジタル庁事業キックオフ (2023/12/7)**

- 「産業領域におけるデータ連携基盤等の実証調査連絡会議」第一回実務者会議出席
 - 出席：石原理事長(JFE 鋼材/社長)、加藤 DX 推進部会長(JFE 鋼材/常務)、
 - 政清 DX 推進部委員(日新シャーリング/常務)、染宮事務局長

★ ● **2023年度デジタル庁事業への鉄骨建設業協会の協力依頼 (2023/12/8)**

- 鉄骨建設業協会に対し、デジタル庁事業の説明と事業への協力依頼
 - 出席：政清 DX 推進部委員(日新シャーリング/常務)、染宮事務局長、JIPDEC, EY

5-4 カーボンニュートラルに向けた施策に関して

ZSK 全体で、CO2 排出量・エネルギー原単位(ガス・電力)・紙消費量・製品歩留に関する現状分析と低減に向けた取組方針案を纏める。

- (1) 生産性の改善・・・設備(ファイバーレーザ)、機動運用、IT化(システム化)
- (2) 無駄の低減・・・歩留向上(ミルシート表記改善、品質証明体系)
 - 紙の削減(ミルシート電子化、受発注のデジタル化)
- (3) グリーン化・・・太陽光発電利用、ガス源水素化

企画青年部会主催の全国青年交流会(2022/10/25@博多)および技術委員会主催のZSKセミナー(2022/11/10@浦安鉄鋼会館)において、テーマとして取り上げた。

5-5 組合活動の活性化

- (1). WEB会議等の活用による本部～各支部間、各支部同士の交流
- (2). 第2回企画青年部会(2021/4/22)をWEB会議にて実施し、コロナ禍が沈静化していない中で、全国青年交流会を、安全かつ魅力ある行事にすべく企画になるよう検討を開始した。
 - ・ 第3回(2021/11/29@鉄鋼会館)、第4回(2022/3/2@博多)、第5回(2022/5/20@東京)、第6回(2022/7/5 神戸)
- (3). 第47回通常総会(2022/5/20 @ 東京/グランドニッコー台場)実施。(改選)
 - ・ 第48回通常総会(2023/5)は、広島で開催する方向で検討中。
- (4). 支部総会：九州(2022/4/8)、東海(2022/4/8)、大阪(2022/4/15)をリアル開催、東京は書面開催(2022/4/28)。
- (5). 北海道支部との本支部懇話会を実施(2022/8/29)。
- (6). 東海支部セミナー(2022/10/19 @安保ホール)に於いて、石原理事長による「厚板シェアリング業界におけるこれからの重点課題」を講演。
- (7). 第3回鐵人フォーラムを博多ニューオータニで実施。(2022/10/25) 参加者 68名。
 テーマ：「未来と向き合う」～時代と共に環境が激変する現在、鉄屋が考える事とは～
 グループ討議テーマ：
 - ①カーボンニュートラルへの取り組み ②人材の採用、育成、定着 ③品質と安全を守る
 - ④会社の歴史と事業の承継 ⑤10～15年後を想像して今取り組むこと ⑥大きなリスクに備える
- (8). 第7回企画青年部会(2023/3/8 @ 博多ニューオータニ)：次年度活動方針及び第4回鐵人フォーラムの方針を検討
- (9). 技術委員会(23年度第1回(2023/5/11, @日鐵神鋼シャーリング)
 (23年度第2回(2023/6/2, ハイブリッド))
 - ・ 議題：2022年災害統計調査報告、ZSK セッサタクマ会(2023.12 @浦安 予定)
- (10). 第8回企画青年部会(2023/6/8@日本プレスセンター) 次年度の部会体制及び第4回鐵人フォーラムの再検討。現状案(2024/2/14 フォーラム：@沖縄/沖縄県自治会館、懇親会：@ダブルツリーBy ヒルトン首里)
- (11). 北海道支部での本支部懇話会をマルキンサトーにて実施(2023/8/25)。当日、(株)NICHIJ0及び阿部鋼材の発寒工場を見学。
- (12). 第9回企画青年部会(2023/9/13@鉄鋼会館)
 次年度の部会体制及び第4回鐵人フォーラム企画案を議論。フォーラムのテーマは、前回同様。
 - ★ 事前アンケートを実施し、参加者の問題意識を事前に把握(2023/10/20締め切り)
 40名参加予定(2023/12/8集計時点)

5-6 災害統計調査

- (1). 2020年度より技術委員会の下、安全分科会を発足させ、安全に関する継続的な統計調査、労働災害情報の収集を実施した。
- (2). 溶断業界における災害件数、度数率、強度率、災害類型等の傾向や動向の情報を収集し、それらを定期的(毎年1回)に公表することで、組合員各社の安全に関する改善、災害への未然防止に役立てていただくことを目的とする。
- (3). ZSKとして、初めての大規模な災害統計調査となり、有効調査対象は最終的に88社と全組合員の半数以上の

『経済産業省ヒアリング資料 / (2023年12月)』

協力が得られた。安全分科会から調査結果報告が出され、災害事例と共にZSKホームページに公開
(2021.7.13)

(4). 2021年度に関する調査は、2022/1/14から開始し2022/3/末に集計。全産業の統計結果と摺合せを行い、第3回ZSK技術セミナーにて報告。機関誌及びHPへ掲載。

(5). HP 労働災害事例を更新(全67事例) ※ www.tekkoo.jp/zsk

(6). 2022年度に関する調査を開始(2023/2/22 2022年のアンケート発送、2023/3末締め切り)

★ (7). 2022年度の集計結果を掘主査が技術委員会(2023/5/11)で報告。全国産業との比較が完了した時点で機関誌(2023/11月合計掲載) および HP に掲載(2023/6/22)

★ (8). 2022年度統計事例(新規47件)は、安全分科会で取りまとめ作業を行い、2024年1月にHP掲載予定。

5-7 その他

(1). 鉄鋼流通6団体合同賀詞交歓会 :

- 2023年1月23日(金) 17:00開催 : 全国コイルセンター工業組合が幹事団体
 - 主催6団体が集まり2023年の実施に関して検討(2022/8/25)
 - ◇ 例年利用しているロイヤルパークホテル(水天宮)にてリアルで開催する方針を確認した。
 - 主催6団体が集まり、予定通り開催する事で最終確認(2022/12/2)
 - 実施 参加者450名

★ 2024年は、ロイヤルパークホテル(水天宮)にて2024年1月12日(金) 17時より開催
全国鉄鋼販売業連合会が幹事団体

(2). 第48回通常総会

- 開催日時 : 2023年5月26日(金) 16:00
- 開催場所 : グランドプリンスホテル広島
- 出席者数 : 総会(総数161名のうち133名出席(内訳 本人出席58名、議決権行使書による出席75名)

懇親会(総数112名(組員78名、賛助会員29名、新聞社他5名))

- 議案 :
 - [第1号議案] 第48期事業報告(2022年度)について
 - [第2号議案] 第48期決算報告について および 監査結果の報告
 - [第3号議案] 役員の内任中での退任に伴う補欠選任
 - [第4号議案] 第49期事業計画(2023年度)について
 - [第5号議案] 第49期予算について

全ての議案が可決承認された

★ ※ 第49回通常総会は、2024年5月24日に北海道にて実施予定

(3). 実態調査実施(需要動向等。隔年実施)

- 第25次実態調査
 - 調査依頼発送(2023/6/28) アンケート×切(7/末)

★ ➢ 公表/機関誌11月号に同封(2023/11/30)

『経済産業省ヒアリング資料 / (2023年12月)』


■中国からの厚板の輸入推移表

年度	普通鋼		合金鋼		普通+合金
	量 (千トン/月)	価格 (千円/トン)	量 (千トン/月)	価格 (千円/トン)	量 (千トン/月)
2013年度 Ave.	5.4	57	11.7	58	17.1
2014年度 Ave.	11.6	58	22.4	57	34.0
2015年度 Ave.	5.6	47	27.9	42	33.5
2016年度 Ave.	3.8	37	26.6	42	30.3
2017年度 Ave.	2.1	90	11.2	112	13.1
2018年度 Ave.	1.49	95	18.9	69	20.5
2019年度 Ave.	2.19	77	18.8	58	20.9
2020年度 Ave.	0.18	27	11.1	66	11.3
2021年4月	0.003	110	22.8	79	22.8
5月	—	—	7.3	82	7.3
6月	0.01	42	4.7	109	4.7
7月	0.001	296	0.6	132	0.6
8月	2.42	116	7.0	117	9.4
9月	0.1	123	5.0	118	5.1
10月	3.32	127	6.4	121	9.7
11月	—	—	0.7	187	0.7
12月	0.056	118	2.2	125	2.3
2022年1月	0.022	46	0.1	406	0.1
2月	0.105	109	4.6	114	4.7
3月	0.07	94	3.2	128	3.3
2021年度	0.51	98	5.4	143	5.9
4月	0.002	153	3.9	104	3.9
5月	0.024	128	0.4	195	0.4
6月	2.404	119	0.2	369	2.6
7月	—	—	0.1	658	0.1
8月	0.076	112	1.3	137	0.4
9月	1.147	114	0.1	359	1.2
10月	3.224	94	0.4	147	3.6
11月	5.956	97	1.6	109	7.6
12月	0.116	81	0.9	123	1.0
2023年1月	2.104	80	0.05	476	2.1
2月	8.873	78	0.09	219	8.9
3月	1.143	94	2.1	97	3.2
2022年度	2.098	105	0.93	249	3.0
4月	0.111	100	0.09	341	0.2
5月	0.172	98	0.09	316	0.2
6月	0.002	121	0.06	385	0.1
7月	1.188	91	0.14	166	1.2
8月					
9月					
10月					

『経済産業省ヒアリング資料 / (2023年12月)』

■韓国からの厚板の輸入推移表

年度	普通鋼	
	量(千トン/月)	価格(千円/トン)
2013年度 Ave.	38.1	61
2014年度	36.3	64
2015年度	38.7	54
2016年度	43.2	48
2017年度	50.7	59
2018年度	36.2	69
2019年度	32.4	69
2020年度	40.7	60
2021年4月	40.1	63
5月	26.9	69
6月	36.1	75
7月	28.8	78
8月	22.8	98
9月	39.8	105
10月	35.4	110
11月	35.1	111
12月	28.8	114
2022年1月	37.4	110
2月	25.3	110
3月	30.9	110
2021年度	32.3	96
4月	33.8	108
5月	—	—
6月	25.5	119
7月	27.4	127
8月	29.7	130
9月	25.6	125
10月	29.4	123
11月	24.7	119
12月	23.5	119
2023年1月	34.7	114
2月	22.6	110
3月	38.5	108
2022年度 Ave.	28.6	118
4月	34.9	105
5月	30.9	107
6月	35.7	112
7月	27.5	114
8月		
9月		
10月		


鋼板流通調査


(2023年10月)

※暦年・年度推移の月末在庫は最終月の在庫 (単位:ト)

	受入	成品切板 A	未切断鋼板 B	出荷計 A+B	月末在庫※	賃加工 C	切断量 A+C
暦年 推移	2013年	2,098,532	1,501,987	569,872	2,071,859	365,035	1,773,602
	2014年	2,241,214	1,559,767	655,730	2,215,497	390,752	1,818,368
	2015年	2,013,033	1,461,880	581,006	2,042,886	360,899	1,739,079
	2016年	1,970,109	1,429,156	520,849	1,950,005	381,003	1,709,748
	2017年	2,031,642	1,472,558	551,573	2,024,131	388,514	1,741,280
	2018年	2,092,515	1,571,732	528,578	2,100,310	380,719	1,804,432
	2019年	2,065,877	1,488,734	518,625	2,007,359	439,237	1,685,676
	2020年	1,617,047	1,266,274	439,138	1,705,412	350,872	1,401,424
	2021年	1,870,147	1,371,712	469,343	1,841,055	379,964	1,499,408
	2022年	1,977,115	1,406,349	509,849	1,916,198	440,881	1,548,947
年度 推移	2018年度	2,140,617	1,583,050	532,464	2,115,514	408,303	1,802,115
	2019年度	1,941,027	1,441,556	493,623	1,935,179	414,151	1,628,703
	2020年度	1,624,770	1,252,311	436,079	1,688,390	350,531	1,378,581
	2021年度	1,950,255	1,388,858	483,828	1,872,686	428,100	1,518,341
	2022年度	1,901,446	1,408,368	505,983	1,914,351	415,195	1,549,573
月次 推移	2022/5	152,830	108,747	39,400	148,147	449,597	119,019
	6月	180,324	119,933	46,806	166,739	463,182	134,932
	7月	172,226	117,119	51,415	168,534	466,874	129,082
	8月	157,892	112,095	37,589	149,684	475,082	124,249
	9月	155,244	120,760	43,456	164,216	466,110	133,212
	10月	165,049	122,880	43,886	166,766	464,393	135,377
	11月	154,948	125,460	44,122	169,582	449,759	137,216
	12月	148,712	120,449	37,141	157,590	440,881	132,269
	2023/1	135,526	105,856	37,763	143,619	432,788	114,675
	2月	147,041	112,218	41,512	153,730	426,099	122,957
	3月	155,439	124,716	41,627	166,343	415,195	137,881
	4月	146,143	119,005	37,442	156,447	404,891	128,362
	5月	141,105	112,548	36,955	149,503	396,493	120,819
	6月	149,119	120,564	38,122	158,686	386,926	130,645
	7月	144,396	110,895	37,158	148,053	383,269	121,197
	8月	135,470	105,719	35,084	140,803	377,936	117,241
	9月	149,397	114,576	38,374	152,950	374,383	126,409
	10月	152,838	112,209	41,726	153,935	373,286	126,553
	前月差	3,441	▲ 2,367	3,352	985	▲ 1,097	2,511
前月比	102.3%	97.9%	108.7%	100.6%	99.7%	121.2%	100.1%
前年同月	165,049	122,880	43,886	166,766	464,393	12,497	135,377
前年同月比	92.6%	91.3%	95.1%	92.3%	80.4%	114.8%	93%

支部別 集計 (当月)	北海道	3,213	2,544	1,060	3,604	20,517	333	2,877
	東北	3,616	2,420	598	3,018	9,585	52	2,472
	東京	57,305	40,138	16,051	56,189	114,175	4,479	44,617
	新潟	2,599	2,133	828	2,961	9,118	58	2,191
	東海	19,729	15,337	4,948	20,285	53,499	1,489	16,826
	大阪	33,983	24,709	6,994	31,703	75,277	3,567	28,276
	神姫	14,052	9,156	6,603	15,759	23,592	593	9,749
	中国	6,626	5,331	1,278	6,609	18,332	1,809	7,140
	九州	11,715	10,441	3,366	13,807	49,191	1,964	12,405

組合員数162(152社10事業所)

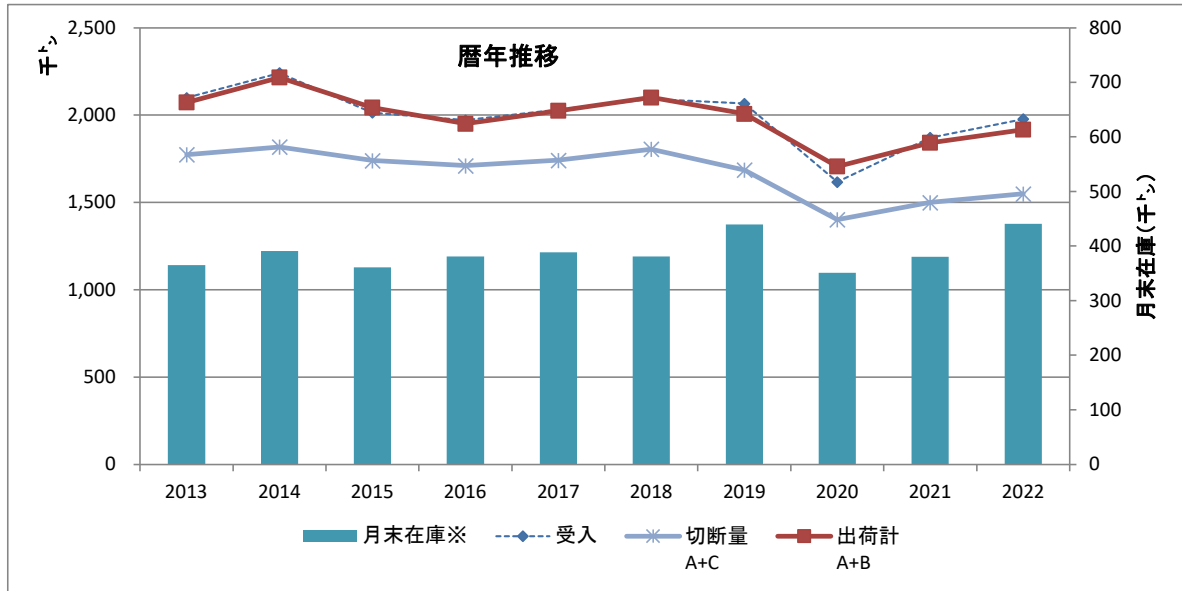

全国厚板シャリング工業組合

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-2-10 鉄鋼会館 6F

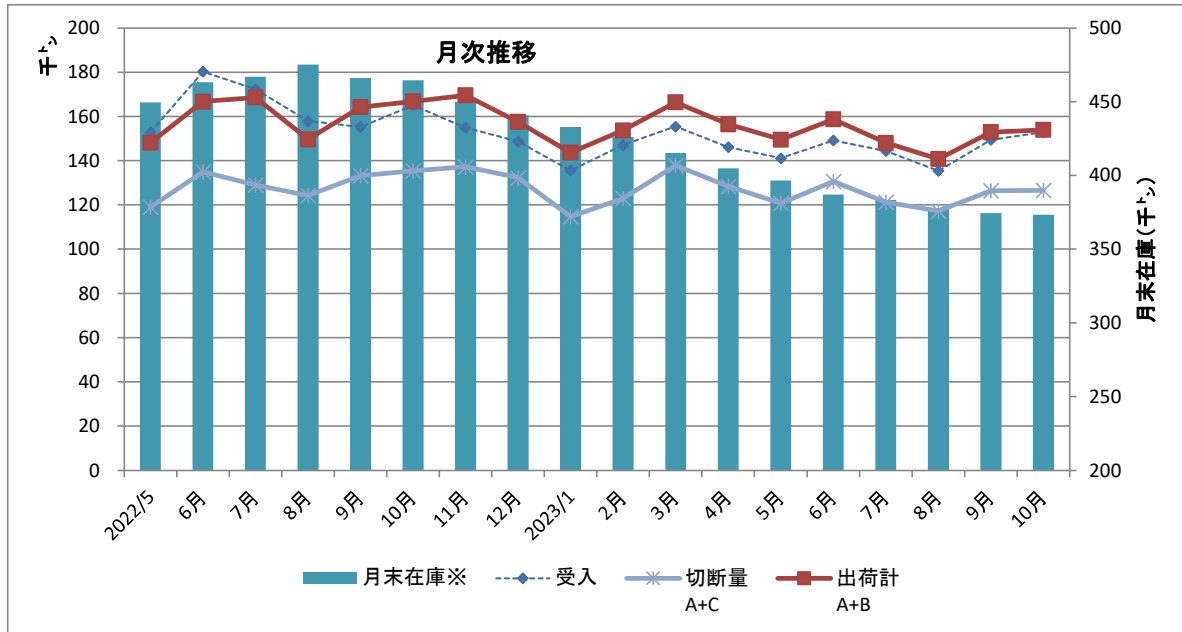
電話: 03-3669-0641 FAX: 03-3669-0658 URL: <http://www.tekkoo.net/zsk>

Version5

■ 暦年推移



■ 月次推移



■ 在庫推移

	全国	北海道	東北	東京	新潟	東海	大阪	神姫	中国	九州
5月	396,493	24,471	11,913	118,290	10,221	56,435	72,409	23,337	20,412	59,005
6月	386,926	23,560	10,876	116,648	10,004	56,275	70,673	22,758	19,142	56,990
7月	383,269	22,953	10,447	114,118	9,638	55,898	73,699	23,865	19,002	53,649
8月	377,936	21,886	9,280	112,907	9,558	54,772	72,055	24,961	19,231	53,286
9月	374,383	20,908	8,987	113,059	9,480	54,055	72,997	25,299	18,315	51,283
10月	373,286	20,517	9,585	114,175	9,118	53,499	75,277	23,592	18,332	49,191

■ 在庫率推移

	全国	北海道	東北	東京	新潟	東海	大阪	神姫	中国	九州
5月	265.2%	681.6%	450.9%	222.9%	405.9%	311.3%	247.4%	112.3%	325.1%	446.0%
6月	243.8%	587.4%	407.6%	201.6%	346.5%	297.9%	228.0%	116.1%	248.3%	405.6%
7月	258.9%	604.0%	408.9%	206.8%	376.5%	315.4%	255.3%	139.9%	307.3%	379.9%
8月	268.4%	634.9%	356.6%	218.2%	352.3%	328.8%	253.2%	158.4%	309.0%	403.3%
9月	244.8%	559.6%	349.8%	195.1%	337.5%	279.4%	244.8%	152.9%	274.0%	379.7%
10月	242.5%	569.3%	317.6%	203.2%	307.9%	263.7%	237.4%	149.7%	277.4%	356.3%

ZSK景況感アンケート(2023年12月) 集計結果

今回(2023年12月)に実施した景況感アンケート結果

前回(2023年9月)に実施した景況感アンケート結果

前回(2023年6月)に実施した景況感アンケート結果

1. アンケート実施時期 2023年12月
2. 回収率 61% (98社 / 161社)
3. 集計結果 (全国)

(3) 7-9月の状況と足元(10-12月)の景況感

回答	回答数	回答率	景況感指数
A 良くなった	3	3%	47
B 若干良くなった	22	22%	
C 同レベル	40	41%	
D 若干悪くなった	28	29%	
E 悪くなった	5	5%	

(3) 4-6月の状況と足元(7-9月)の景況感

回答	回答数	回答率	景況感指数
A 良くなった	3	3%	45
B 若干良くなった	18	18%	
C 同レベル	44	43%	
D 若干悪くなった	28	27%	
E 悪くなった	9	9%	

(3) 1-3月の状況と足元(4-6月)の景況感

回答	回答数	回答率	景況感指数
A 良くなった	2	2%	44
B 若干良くなった	17	16%	
C 同レベル	48	46%	
D 若干悪くなった	29	28%	
E 悪くなった	9	9%	

(4) 足元の景況感。昨年同期と比べて

回答	回答数	回答率	景況感指数
A 良くなった	3	3%	36
B 若干良くなった	14	14%	
C 同レベル	28	29%	
D 若干悪くなった	33	34%	
E 悪くなった	20	20%	

(4) 足元の景況感。昨年同期と比べて

回答	回答数	回答率	景況感指数
A 良くなった	4	4%	36
B 若干良くなった	11	11%	
C 同レベル	28	27%	
D 若干悪くなった	40	39%	
E 悪くなった	19	19%	

(4) 足元の景況感。昨年同期と比べて

回答	回答数	回答率	景況感指数
A 良くなった	4	4%	36
B 若干良くなった	14	13%	
C 同レベル	30	29%	
D 若干悪くなった	34	32%	
E 悪くなった	23	22%	

(5) 1-3月の見通しについて

回答	回答数	回答率	景況感指数
A 良くなる	1	1%	44
B 若干良くなる	9	9%	
C 同レベル	60	61%	
D 若干悪くなる	23	23%	
E 悪くなる	5	5%	

(5) 10-12月の見通しについて

回答	回答数	回答率	景況感指数
A 良くなる	4	4%	50
B 若干良くなる	26	25%	
C 同レベル	47	46%	
D 若干悪くなる	18	18%	
E 悪くなる	7	7%	

(5) 7-9月の見通しについて

回答	回答数	回答率	景況感指数
A 良くなる	2	2%	53
B 若干良くなる	27	26%	
C 同レベル	59	56%	
D 若干悪くなる	14	13%	
E 悪くなる	3	3%	

※景況感指数：景況感を次の計算式で数値化

$$\text{回答率A} \times 100 + \text{回答率B} \times 75 + \text{回答率C} \times 50 + \text{回答率D} \times 25$$

4. ZSK景況感アンケート(2023年12月)/支部別集計表

(回答社数降順)

(3) 7-9月の状況と足元(10-12月)の景況感						
支部	A 良くなった	B 若干良くなった	C 同レベル	D 若干悪くなった	E 悪くなった	計
東京支部	1	11	15	8	1	36
東海支部	1	5	12	5	2	25
九州支部			3	6	1	10
大阪・神姫支部		1	2	5		8
中国支部		3	1	1	1	6
東北支部	1		3	1		5
北海道支部		1	2	1		4
新潟支部		1	2	1		4
合計(全国)	3	22	40	28	5	98
		25	48	33		

回答比率					景況感指数
A 良くなった	B 若干良くなった	C 同レベル	D 若干悪くなった	E 悪くなった	
3%	31%	42%	22%	3%	52
4%	20%	48%	20%	8%	48
		30%	60%	10%	30
		13%	25%	63%	38
		50%	17%	17%	50
20%		60%	20%		55
	25%	50%	25%		50
	25%	50%	25%		50
3%	22%	41%	29%	5%	47
26%		49%	34%		

(回答社数降順)

(4) 足元の景況感。昨年同期と比べて						
支部	A 良くなった	B 若干良くなった	C 同レベル	D 若干悪くなった	E 悪くなった	計
東京支部	2	9	11	10	4	36
東海支部	1	2	8	8	6	25
九州支部			2	4	4	10
大阪・神姫支部			2	5	1	8
中国支部		3		2	1	6
東北支部			3		2	5
北海道支部			1	2	1	4
新潟支部			1	2	1	4
合計(全国)	3	14	28	33	20	98
		17	28	20		

回答比率					景況感指数
A 良くなった	B 若干良くなった	C 同レベル	D 若干悪くなった	E 悪くなった	
6%	25%	31%	28%	11%	47
4%	8%	32%	32%	24%	34
		20%	40%	40%	20
		25%	63%	13%	28
	50%		33%	17%	46
		60%		40%	30
		25%	50%	25%	25
		25%	50%	25%	25
3%	14%	29%	34%	20%	36
17%		29%	20%		

(回答社数降順)

(5) 1-3月の見通しについて						
支部	A 良くなる	B 若干良くなる	C 同レベル	D 若干悪くなる	E 悪くなる	計
東京支部	1	2	22	9	2	36
東海支部		3	15	5	2	25
九州支部	1	7	2			10
大阪・神姫支部		5	2	1		8
中国支部	1	4	1			6
東北支部		2	3			5
北海道支部	1	2	1			4
新潟支部	1	3				4
合計(全国)	1	9	60	23	5	98
		10	60	28		

回答比率					景況感指数
A 良くなる	B 若干良くなる	C 同レベル	D 若干悪くなる	E 悪くなる	
3%	6%	61%	25%	6%	44
	12%	60%	20%	8%	44
	10%	70%	20%		48
		63%	25%	13%	38
	17%	67%	17%		50
		40%	60%		35
	25%	50%	25%		50
	25%	75%			56
1%	9%	61%	23%	5%	44
10%		61%	29%		

◆ZSK景況感アンケート回収状況

支部	組合員数	回答社数	支部回収率
東京支部	62	36	58%
東海支部	35	25	71%
九州支部	20	10	50%
大阪・神姫支部	24	8	33%
中国支部	6	6	100%
東北支部	5	5	100%
北海道支部	5	4	80%
新潟支部	4	4	100%
全国	161	98	61%

※景況感指数：景況感を次の計算式で数値化

回答比率A*100 + 回答比率B*75 + 回答比率C*50 + 回答比率D*25

ZSK景況感アンケート(2023年12月)/需要分野別集計表

(回答社数降順)

(3)7-9月の状況と足元(10-12月)の景況感						単位[社]	回答比率					景況感指数
分野	A 良くなった	B 若干良くなった	C 同レベル	D 若干悪くなった	E 悪くなった	計	A 良くなった	B 若干良くなった	C 同レベル	D 若干悪くなった	E 悪くなった	
A 建築	1	9	20	12	3	45	2%	20%	44%	27%	7%	46
E 店売り	1	5	6	5	0	17	6%	29%	35%	29%		53
D 産業機械	1	2	5	7	1	16	6%	13%	31%	44%	6%	42
C 建設機械		1	3			4		25%	75%			56
B 橋梁		1	3	3		7		14%	43%	43%		43
H 船舶/自動車/その他		3	1		1	5		60%	20%		20%	55
G 重電			2			2			100%			50
F 土木		1		1		2		50%		50%		50
総計	3	22	40	28	5	98	3%	22%	41%	29%	5%	47
							26%	41%	34%			

(回答社数降順)

(4) 足元の景況感。昨年同期と比べて						単位[社]	回答比率					景況感指数
行ラベル	A 良くなった	B 若干良くなった	C 同レベル	D 若干悪くなった	E 悪くなった	計	A 良くなった	B 若干良くなった	C 同レベル	D 若干悪くなった	E 悪くなった	
A 建築	1	5	14	17	8	45	2%	11%	31%	38%	18%	36
E 店売り		1	6	8	2	17		6%	35%	47%	12%	34
D 産業機械	1	1	1	5	8	16	6%	6%	6%	31%	50%	22
C 建設機械		2	1	1		4		50%	25%	25%		56
B 橋梁	1	1	3	2		7	14%	14%	43%	29%		54
H 船舶/自動車/その他		2	1		2	5		40%	20%		40%	40
G 重電		1	1			2		50%	50%			63
F 土木		1	1			2		50%	50%			63
総計	3	14	28	33	20	98	3%	14%	29%	34%	20%	36
							17%	29%	54%			

(回答社数降順)

(5) 1-3月の見通しについて						単位[社]	回答比率					景況感指数
行ラベル	A 良くなる	B 若干良くなる	C 同レベル	D 若干悪くなる	E 悪くなる	計	A 良くなる	B 若干良くなる	C 同レベル	D 若干悪くなる	E 悪くなる	
A 建築		6	25	11	3	45		13%	56%	24%	7%	44
E 店売り		1	12	4		17		6%	71%	24%		46
D 産業機械			13	2	1	16			81%	13%	6%	44
C 建設機械	1		1	2		4	25%		25%	50%		50
B 橋梁			3	3	1	7			43%	43%	14%	32
H 船舶/自動車/その他		1	3	1		5		20%	60%	20%		50
G 重電		1	1			2		50%	50%			63
F 土木			2			2			100%			50
総計	1	9	60	23	5	98	10%	9%	61%	23%	5%	54
							10%	61%	29%			